

令和元年度 第2回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録要旨

【開催日時】 令和元年 11 月 26 日（火） 14 時 05 分から 15 時 05 分まで

【開催場所】 紀の川市役所 本庁 3 階 庁議室

【出席者】

○紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会（委員 8 名内 7 名出席）

中谷委員（和歌山県那賀振興局地域振興部企画産業課 課長）

仁藤委員（近畿大学生物理工学部地域交流センター センター長）

飯田委員（株式会社日本政策金融公庫和歌山支店 支店長）

前島委員（和歌山公共職業安定所 所長）

中村委員（株式会社和歌山放送 代表取締役社長）

林委員（紀の里農業協同組合総合企画部 部長）

折居委員（紀の川市自治連絡協議会 会長）

【欠席】野村委員（紀の川市立地企業連絡協議会 会長）

○事務局（企画部）（4 名）

今城企画部長、角企画部次長兼課長、兎玉、西川

○傍聴人（0 名）

【会議の概要】

1. 開会（15：05）（司会：角次長）

2. 会長挨拶

紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 仁藤会長から挨拶。

3. 議題

○議長（仁藤会長）

「会議を公開」するために簡潔に取りまとめた議事録と写真の公開並びに音声録音の承諾。

委員の過半数以上が出席しているため、会議が成立していることを報告。

議題 i) 「紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理」について

基本目標評価シート（資料①）をもとに、「数値目標の状況」・「K P I（重要業績評価指標）の状況」を中心に、進捗状況について説明。

また、委員からいただいた意見を踏まえた「審議会による検証結果」について説明を行い、追記・修正、質疑等の審議をお願いする。

【質疑】

委員：基本目標評価シート②では、高校生等を対象にしたインキュベーター（起業）プログラム教育を実施と記載がありますが、具体的にはどのような事業を予定しているのでしょうか。

事務局：市内の県立貴志川高校では、本年度において、インキュベーター（起業）プログラム教育を授業にて実施していますが、他にも、県立粉河高校の地域課題解決に取り組むグループ「K o K o 塾」の参加生徒に、政策金融公庫が開催する「高校生ビジネスプラン・グランプリ」の参加について提案しましたが、本年度については時期の関係から参加することができませんでした。

コンテストには非常に興味を持っていただいたことから、来年度については早い時期から声をかけ、市も協力して参加できるよう取り組みたいと考えています。

委員：インキュベーター（起業）プログラム教育は今後、市内全域を対象にと考えているのでしょうか。

事務局：粉河高校のような進学校では就職・起業に興味を持つことが少ないため、当面は貴志川高校を対象にと考えています。

委員：「高校生ビジネスプラン・グランプリ」へは、就職・起業という面だけでなく、進学校が多く参加いただいています。

委員：基本目標評価シート②の「K P I の分析」において、「ある程度の契約は達成できたが」の記載があるが、抽象的な表現であるので、実績値等を示して具体的な記載に修正してはどうか。

事務局：「K P I の状況」で小売業者との契約締結件数（累計）の実績を示しているので、できるだけ具体的な記載に修正させていただきます。

委員：京奈和関空連絡道路の早期完成と建設を視野に入れたまちづくりは非常に重要であると思います。国の施策でもあり、様々なプロセスを経なければならないことは理解しておりますが、この点を、今後の市の将来ビジョンに盛り込むことは可能と考えていいでしょうか。

事務局：京奈和関空連絡道路が完成すれば恐らくインターチェンジが整備されることとなり、その周辺の整備（まちづくり）についてもビジョンを描いておく必要があります。こういった状況も視野に入れて、まちづくりを進めたいと考えています。

委員：難しい面もあるかと思いますが、市のビジョンや整備時期、推進のために何が必要か等について、なるべく具体的に情報を示すことができれば、市民の方々の意識も高まり、また、協力も得られると思います。市民・地域が盛り上がることで早期完成に繋がると考えますので、引き続き、建設推進に力を注いでいただきたい。

委員：全国学力・学習状況調査の全ての教科の全国平均正答率との差について、差が生じる要因は分析できているでしょうか。

【当日の回答内容に追記しています】

事務局：全国学力・学習状況調査結果に基づき自己点検を行っていますが、要因の特定には至っておりません。しかし、調査結果で明らかになった課題・特徴・傾向から今後の方向性や課題に対する改善方法を分析しておりますので、市・県・学校が連携した学力向上に向けた取組を進めます。

委員：基本目標評価シート③の「K P I の分析」において、「学校に行くには楽しい」と思う児童・生徒の割合の部分について、これまでの実績値に基づいた分析に修正して下さい。

事務局：実績値に基づいた分析に修正します。

委員：本年、ハスを中心とした交流ということで、市内の「平池緑地公園」にベトナム国首相夫妻が訪問されました。これまでも交流の実績はあると聞いていますが、友好・交流の機運が高まっていると感じています。

この機会を活用して、雇用面や観光面等の成果に繋げていけるような交流・取組を進めていただきたい。

事務局：ハスを中心とした交流をベースに、今後具体的にどういった交流が図れるのか等の話し合いを進めていきます。

議長：先ほどからの意見や指摘点をもとに、再度、表現・内容等を推敲し、審議会としての検証結果とさせていただきます。

議題 ii) 次期「地方版総合戦略」の策定について

まち・ひと・しごと創生基本方針 2019 について（資料②）をもとに、「改訂の方針・方向性」及び本市の次期「総合戦略」にかかる「改訂スケジュール」について説明。

また、現行「総合戦略」の延長についても併せて説明を行う。

【質疑】

委員：今後も、国から具体的な資料・情報が提供されるのでしょうか。

事務局：今後、国の策定する「総合戦略」本体及び和歌山県の策定する「総合戦略」が示されますが、これらを参考にしつつ、本市の地域特性や課題等を検証し、改訂を進めていきます。進捗状況に応じて審議会を重ねたいと思っています。

委員：現行「総合戦略」の1年間の延長に関し、国が策定する「総合戦略」と次期「地方版総合戦略」の計画期間について、もう少し詳しく説明いただきたい。

事務局：国が策定する「第2次総合戦略」の計画期間は2020年度（令和2年度）から2024年度（令和6年度）の5年間の計画となりますが、本市の次期「総合戦略」策定については、国の「第2次総合戦略」を参考にしたいこともあり、2020年度（令和2年

度)中を策定作業期間に充てることから、計画期間は2021年度(令和3年度)から2024年度(令和6年度)の4年間の計画となります。

このことから、策定作業期間となる2020年度(令和2年度)の1年間が空白期間となることから、地方創生における切れ目のない取組を進めていくため、現行「総合戦略」の1年間の延長が必要となります。

全国の自治体の動向では、約4分の3の自治体が2019年度(令和元年度)、約4分の1の自治体が2020年度(令和2年度)に策定する予定という状況です。

委員：策定作業の時間を十分確保し、次期「総合戦略」には重要プロジェクト等を盛り込んで実効性のある計画を策定いただきたい。

審議会からもその都度、助言させていただきます。

委員：次期「総合戦略」と長期総合計画との関係性・関連性について説明いただきたい。

事務局：現行「総合戦略」については、第2次長期総合計画との連携のもと関連事業を実施しておりますが、次期「総合戦略」においても最上位計画である「第2次長期総合計画」と連携し、目標部分では重なる点もあるかと思いますが、重点的に人口減少対策等の視点を持って策定を進めたいと考えます。

【その他】

議長：まだ少し時間がありますので、各委員からそれぞれの分野・社会状況等についてご意見いただければと思います。

委員：基本目標評価シート③「若い世代から選ばれるまち」に関連して、ワーク・ライフ・バランスなど働き方改革については、ハローワークにおいても重要な施策の1つです。中小企業等の事業所においては働き方改革を進めるにあたっての課題もあります。事業者からの相談がありましたら、ハローワークにおいて、毎月、社会保険労務士による相談窓口を開設しているので、ご紹介いただきたいと思います。

また、プラザホープ内の社会保険労務士会への委託事業として、働き方改革推進センターを設置しており、無料相談窓口や企業への出張相談も実施しているので、こういった支援策の積極的な活用及び事業者への周知に関し、ご協力いただきたいと思います。

委員：中小企業等の事業所における、ワーク・ライフ・バランス、働き方改革を実行するにあたっては、単体の取組だけでなく、その前提として生産性の向上もセットにした取組が必要ではと考えます。意見として付け加えさせていただきます。

6. その他

7. 閉会（15：05）